

## ○田原市（地区医師会モデル）

### 1 田原市の特徴

- 高齢者の労働人口の割合が高い。（全国の高齢者労働力率：21.5%、愛知県の高齢者労働力率：24.5%、田原市の高齢者労働力率：44.1%（H22国勢調査より）  
※高齢者労働力率：65歳以上人口に対する65歳以上労働人口の比率
- 病院は厚生連渥美病院のみ、市内内科医の高齢化（平均年齢60歳代後半）・後継者問題、有床診療所が無い等医療資源に課題を抱えている。

### 2 モデル事業の対象地域

田原東部中学校地区（人口：13,843人 高齢化率：22.5%）

### 3 平成26年度の主な取組状況等

分野	項目	実績	成果・課題	分野	項目	実績	成果・課題
関係機関のネットワーク化	地域包括ケア基本方針等検討会議（地域包括ケアシステムの構築の検討）	1回開催 【構成員】市医師会長、市歯科医師会長、市薬剤師会長、市社協会長、県保健所長 等 【内容】地域包括ケアシステムの推進、在宅医療・介護の連携について 等	○ 関係機関連絡会議は毎月開催しており、顔の見える関係が築けた。関係機関の課題も話し合わせ、検討しながらコミュニケーションが図れた。	医療と介護の連携	ICT等を活用した患者情報の共有	電子@連絡帳を活用した東三河ほいっぷネットワークに加入中（65事業所（全介護保険事業者、医師会、歯科医師会、薬剤師会の一部）が加入）	○ ICTについて、医師に限ると、現在一部の医師のみが活用している状況であり、活用者を増やすことが課題である。
	関係機関連絡会議（地域包括ケアシステムを構築していく上で必要な対策や、地域ケア会議で抽出された課題等の解決に向けた対策の検討）	9回開催 【構成員】市医師会理事、市歯科医師会理事、市薬剤師会長、地域包括支援センター長 等 【内容】地域包括ケアモデル事業の取組や地域課題 等	○ 医科歯科薬科情報シート、医療・介護マップの作成を通して、関係者の理解・組織的な協力を得ることができた。		在宅医療等に従事する多職種の研修	5回開催 【参加人数】1回につき30～100名、計292名参加 【内容】在宅における終末期ケア、緩和ケア 等	○ 厳しい医療状況を踏まえ、医療と介護のスムーズな連携による医療側の負担軽減を図るため、研修等連携推進に取り組んだ。
	地域ケア会議（処遇困難事例の検討）	3回開催			在宅医療等の普及啓発	○ 出前講座を20回実施 【参加人数】延べ884名 ○ 講演会を2回開催 【参加人数】1回目：77名、2回目：140名 【内容】在宅における終末期ケア（緩和ケア・認知症の地域支援）	○ 多職種による研修会では、がん患者や認知症等の事例をグループワークにより参加者のコミュニケーションを図ることができ、参加者間の顔の見える関係が構築できた。
	社会資源等の把握（各種アンケートの実施、資源マップ（リスト）の作成等）	○ 病院、介護事業所等に在宅医療アンケートを実施 【内容】在宅医療の実施状況等 ○ 医科歯科薬科情報シートを作成、医療・介護事業所に配布 ○ 医療・介護マップを作成し全戸配布 ○ 在宅医療用語集を作成、医療・介護事業所に配布					
医療と介護の連携	在宅医療連携協議会（多職種連携の課題の抽出と解決策の検討）	1回開催 ※基本方針等検討会議を活用 【内容】地域包括ケアシステムの推進、在宅医療・介護の連携について 等 ※その他、関係機関連絡会議で研修内容、講演会内容等の検討やアンケート結果を共有	○ 関係者間での情報共有、他分野の知識取得、意識向上が図られた。	その他の取組	後方支援病床の確保	渥美病院が、平成26年10月に地域包括ケア病棟55床、11月に医療療養病棟25床を開設（レスパイト病床含む）。開業医の後方支援病床として確保	○ 認知症予防教室はJA愛知みなみ、厚生連と、口腔教室は歯科医師会と協力して実施したが、他機関と連携して実施ができたことは、市と関係機関のネットワーク強化にとって有意義であった。
					介護の取組	○ 家族介護支援教室を10回開催（延べ58名参加） ○ 認知症介護支援教室を10回開催（延べ98名参加）	
					介護予防の取組	○ 認知症予防教室を9回開催（延べ110名参加） ○ 口腔教室を4回開催（延べ52名参加）	
<p><b>平成27年度の取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、会議、研修、普及啓発等を実施していく。会議では課題の検討を進めていく。</li> <li>○ 唯一の病院である渥美病院とも定期的に会議を開催し、連携を検討していく。</li> <li>○ 新たな介護予防事業、住まい対策の検討に取り組んでいく。</li> </ul>							